

## 「住吉の語り部となりたい」 シリーズ第16回

料亭つたも主人・深田正雄

2012年7月26日

### 「栄中部を住みよくする会」が街づくりの原点

先週、18日に「栄中部を住みよくする会」第36回通常総会が開催、地域17町内の代表80名の参加のもと、昨年より会長を務める多湖秀明さんから事業報告そして今後の事業計画発表、承認がなされました。

栄2-3丁目地区町づくりの原点である同会の変遷とともに、これからのシリーズでは栄ミニ地域の諸活動を紹介してまいります。

昭和50年頃、栄住吉地区は名古屋の最も賑やかな繁華街として、悪質な客引き、ぼったくりバー、違法風俗店、不法駐車、公園でのホームレス、そして、暴力団対策など多くの課題を抱えておりました。昭和41年に新町名表示となっても各町内は旧町名地域での町内会や振興会の活動で、組織もバラバラで一体化した活動が不十分でありました。警察や行政からの指導もあり、栄3丁目を中心に総合的に共通の問題を考える組織として、同会が発足しました。会の中心は住吉町の深田正矩（葛茂・父）、南呉服町の佐藤嘉晃（ごみとり）、南伊勢町・山岸正明（山岸自転車）、南大津通り・杉野峯一郎（ふとんのスギノ）そして、事務方は竹市稔夫（たけいち文具）、伊藤泰弘（灘屋）であったと父から聞いています。

住みよくする会の主な活動は、防犯、防災が中心で年末の深夜巡回、客引き防止、暴力団対応、歩道看板撤去などお互いのコミュニケーションの場として啓蒙しあい、各商店振興会が発足、街路灯、防犯カメラ、植樹、イルミネーションなど各町内が個別に活動しておりました。

なかでも、中央高校跡地の市有地開発にコンペ方式を採用、USAのマイケル・ウイニック氏の設計を取り入れ土地信託に基づく商業施設ナディアパーク開業（平成9年）については「住みよくする会」の佐藤会長の調整力が大いに評価されております。名古屋市の街づくり事業として数少ない成功事例といえましょう。

同時に、住吉通商店街振興組合では、灘屋伊藤社長のリードで、当時飲食店街では珍しい「住吉通都市景観協定」を平成9年7月18日締結、大型アーチ型アーケード3基、街路搭そして、舗道には各店舗のイメージと要望から絵タイルを設置しております。

この絵タイルは住吉1-3丁目全域に5mごとに254枚のオリジナル陶板による絵タイルでそれぞれの店舗や事業者の由来と要望に応じてデザイン、制作費用は1枚80000円、設置には各5000円を地元負担で施工しました。現在も数枚を除き現存しており、是非、住吉の街歩きの話題として足元の絵タイルを楽しみながら15年前の繁盛振りも思い出してください。

しかし、このような街づくり活動も各商店街が個別に企画検討して、イメージ統合もなくバラバラに実施されておりました。

大規模店舗をかかえる南大津通りのメンバーが商業イベントを仕掛け、建設協定、イルミネーション、バナー&共聴放送、共同清掃など、栄地区の中核として頑張っておりました。逆にナディアパーク開設までは、全く街づくりから取り残された居住者の多い矢場町も隣接しておりました。そして矢場町 1 丁目では公園の愛護会・共同清掃、老人会、子供サークル、婦人会、資源ごみ回収、など昔ながらのお互いのコミュニケーションが図られる場も多くありました。

平成 17 年（2005 年）ごろ、藤井英明社長の㈱ゲイン・雑誌ケリーが住吉地域を「栄ミナミ」と命名しており話題となってまいりました。その頃、栄中部を住みよくなる会の佐藤会長が体調を崩され、小生を中心に世代交代を要請されておりましたのがきっかけで、新しい栄ミナミの地域活性化が若手と外部の力で萌芽していくことになります。

次回から、イベントによる「歩いて楽しい栄ミナミ」づくり、最近の活動を紹介してまいりましょう。

写真：住吉町アーチ 1 丁目（東急イン東）、2・3 丁目にも各 1 基設置



住吉町 2 丁目：絵タイル・つたも旧玄関前（現在は居酒屋あろちゃん）：池の橋をイメージ

